

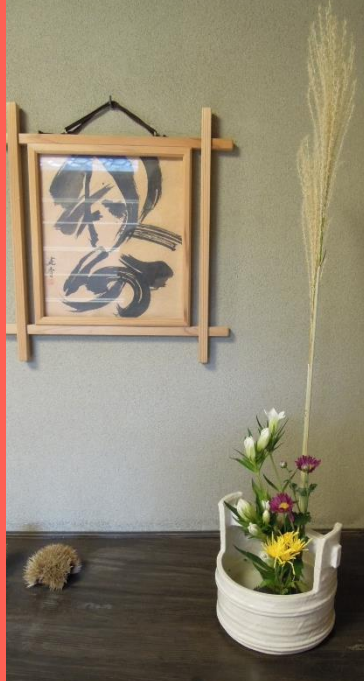


奈良町にぎわい通信

Vol.6

二〇一五・十月号

発行
奈良町
にぎわいの家





橋本宗玲社中による「にぎわい茶会・白露」

秋～ゆったりとお茶を～



小林宗智社中による「体験茶会」

芸術の秋！



和のコンサート
東京より尺八・田辺頌山さん

三絃は奈良在住の菊聖公一さん



恒例の町座講座 テーマは
「町家の再生による住いづくり」

生まれ変わる
町家に皆さん
興味津々

奈良町にぎわいの家 9月のイベントから



四万人！(9/23)
アメリカからのお客様&ガイドの皆さん



奈良町にぎわいラジオ紹介&収録



篆刻の世界
(藤原靖浩)

奈良町の作家シリーズ



墨アート
(イマタニタカコ)



週末恒例
かまど体験！

ご近所さんは「森川杜園」(もりかわ・とえん)

おのこまち(奈良町にぎわいの家・
総合プロデューサー)

この施設に関わるとなったころ、「奈良町」って何?というのを漠然と考えていました。奈良町と聞いて名前が上がる人は?そんな時、「森川杜園」の名前を知りました。奈良人形の名人が、このにぎわいの家の二軒隣に住まいしていたということ。早速、その奈良人形を見たくて調べました。「ああ、なんだかいいなあ。」見えて楽しいのです。大きな呼吸が感じられるような。この作品の姿が、当時の奈良町の息づかいをも伝えているようにも感じました。

その後すぐに、大津昌昭先生の『芸三職 森川杜園』という本に出会ったのは本当に幸運でした。幕末から明治期、激動の時代に奈良町の人々がどのように暮らしていたのか、大津先生の本から、その姿がはいまえます。読んでびっくりしたのは、森川杜園は奈良人形だけでなく、狂言や絵師としてもプロの仕事をしてたということ。「三職」の名人だったのです。杜園自身、芸の家に生まれたわけではないのですが、多くの師と出会い、自分の生業としながら、芸を磨いていきます。当時、町の人たちが、「芸」を身近に感じ、和歌や謡いをたしなみ、暮らしの楽しみや生きがいとしていた空気感、いいなあと思いました。今やデジタル文化真っ盛りですが、当時のアナログ文化が、なんだかこれからの奈良町文化のヒントになるような気がしています。

さて、大津先生の著作は杜園の語り、セリフのスタイルで書かれていて、これは声に出して届けなければと思いました。現在、7歳から76歳までの一般市民の皆さん、15名が日曜日、にぎわいの家で朗読稽古しています。「五重塔、二五〇円で売られる?」「奈良県独立運動」などのセリフに、皆、「へえ!」と言いながらの稽古です。言葉を声に出し、わが町を知る、それの一つのにぎわいの役割かなと思っています。11月29日、本番、ご期待ください。

奈良町にぎわいの家では、二十四節気オリジナルスタンプと節気ごとの歌で皆様をお迎えします。

短歌...喜多隆子(歌人・ヤママユ編集委員)／書...逢香(奈良教育大学)



存在感、あり!!

童謡のSP全集。
右から読んでね。

イラストも
レトロで素敵!

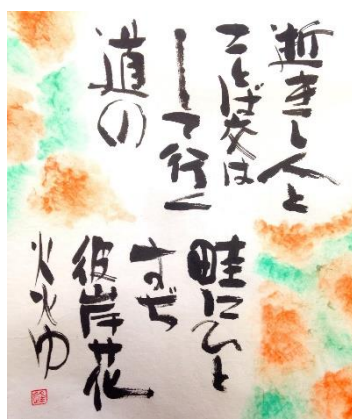
トピックス! にぎわいの家に蓄音機が!

ご近所の方から、蓄音機と、SPレコードを寄贈いただきました。鳴るのかなあ、と思いきや、素晴らしい音を聞かせてくれます。戦前のSP版も多く、流行歌や童謡など、当時の暮らしや世相が、音から伝わってきます。さて、京終はテイチク発祥の地。京終の工場から、日本全国へと、レコードが送り出されていきました。そんなににぎわいをも感じることができる、この蓄音機とSP盤。スタッフも、いろいろ調べ、銀座の専門店からレコード針を取り寄せました。これから折々、懐かしい音を披露します。大変、貴重なものをありがとうございました。

逝きし人とことば交はして行く道の
畦にひとすぢ彼岸花炎ゆ

亡くなった人に語りかける。言葉をおくれば、いない人もまたこたえてくれるような、そんな気持ちで田んぼの畦道を歩いている秋分のころ。畦にはひとすぢの彼岸花が、亡くなった人のいのちの名残のようににもえている…。今はもういない人に語りかける時間のはるけさと、彼岸花の真つ赤な生命力。此岸と彼岸をつなぐようなお歌です。

奈良町にぎわいの家
二十四節気
オリジナルマーク「秋分」
デザイン・金田あおい



事務局だより

2015
10月号

伝統を現代の視点から

事務局長 藤野正文

秋分の名月を見た方も多かったか
と思います。二十四節気では10月
は寒露、霜降。暑かった夏も駆け
足で過ぎ去り、秋晴れの季節です。ね
秋と言えば、夜長に物思いにふける
季節とはいえ、行楽の秋・芸術の秋
奈良町にぎわいの家でも、11月の
終わりまで様々なイベントが開催い
たしますので、多くの方々の来訪を
お待ちしております。

8月から9月にかけての地域別来
訪者アンケート(1502人)では、
国内では、奈良市を含む奈良県内以
外近畿県内の方が最多(378人・
約25%)。近畿以外のお客さんも
約20%。びっくりしたのは、海外
からのお客さんが三分の一以上であ
ったこと。(533人・約35%)
その約半分(約16%)は東アジア
からのお客さんでした。奈良の観光
が変わりつつあり、奈良町に多くの
外国から来訪者が訪れて始めてい
ます。

奈良町の様々な魅力・環境を守り、
来訪者に味わって頂くことは非常に
大切なことです。しかし、単に「歴
史の古さ、物体・形の貴重さや美し
さを語る」だけでなく、古い歴史に
育まれてきた奈良町の価値・町家の

価値、日本の生活文化の意味など
を「現代的な視点」で読み解き、
その「現代的な意味を分かりやす
く伝える方法」を生み出すことに
より、その価値と意味を奈良町の
お住まいの方々と共にすると
に、海外からのお客さんにも伝え
ていきたいと一層思うようになり
ました。そうすることが、グロー
バル化の中で、奈良町が世界のど
こにでもない町として生き残れる
方法ではないかと(少し理屈っぽ
く)考えています。

この視点をもった「奈良町にぎ
わいの家」での試み・作業はまだ
始まったばかりで、手探り・試行
錯誤もありますし、終わりのある
ものでもありません。
今後多くの方々の参画や温かい
ご意見・ご助言を頂戴できれば
幸いと思っております。

皆さんのサポートで その①



番傘をいただきました。海外のお客様が
傘の下に座り、写真を順番にとってお
られました。ありがとうございました！

皆さんのサポートで その②

10/1〜20まで、蔵展示企画
「おりがみワールド」開催中です。
スタッフが和紙で作った大きな折紙
作品と沢山のカラフルな折紙で構成
万華鏡、紙風船、コマなど、実際、
手にとって遊んでいただけます。
今回の折紙制作には、近隣の方々
が関わってくださいました。皆さん
の協力で、今回の展示が華やかで
楽しいものとなりました。
ありがとうございました。

大きな折鶴、蔵に飛ぶ！



奈良町にぎわい通信vol.6

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

イベント、講座情報は、ホームペー
ジ、フェイスブックからご覧になれます。
是非、ご参加ください。

奈良町にぎわいの家二十四節気マークから



寒露 10/8~

冷たい露がおりころ

朝晩は冷え、秋の紅葉の色づきも増してくる季節。
秋の雲、いわし雲などを見ると、空がとても高く感じ
られますね。天気が変わりやすい時期でもあります。
「女心と秋の空」という言葉もありますが、ほんと？！

十月の節気



霜降 10/24~

霜が降りころ